



益城町に関する話題やイベントなど広報係が取材したできごとをご紹介します。

隠れた史跡を後世に伝えていきたい

地域住民の手作り企画 赤井城跡周辺オリエンテーリング



赤井地区を散策し、赤井城にまつわる民話を聞きながら歩くオリエンテーリングが、8月9日に行われました。県の「くまもと里モンプロジェクト事業」の一つとして行われたこのイベントは、今年4月から発足した「赤井台地の史跡を守る会（城本真澄会長）が主催。発足から開催に向けて、地域住民で構成される7人のメンバーで、マップや案内標識の作成や歩く

①各所で説明を受ける参加者 ②昼食では、地元農産物を使った手料理が振る舞われた ③寿咲亜似さんの民話に耳を傾ける参加者

盛り上がりを見せました。城本さんは「隠れた史跡がたくさん眠っております。もっと赤井台地の良さを知ってもらいたい」と参加者に感謝しました。

コースの整備、史跡の説明、もてなす料理内容などを考え、オリジナルのイベントとして完成させました。当日は酷暑に見舞われたものの、地元子ども会など町内外から延べ60人が、出発地点の城本さん宅に集まりました。そこから赤井城跡をぐるりと回り込むコースで約2km、全9か所ある史跡や文化財などの説明を受けながら、約2時間のオリエンテーリングを楽しみました。昼食時には赤井公民館で、手作り料理が振る舞われました。会員の園田いつ子さんは「材料はほとんど持ち寄り。主に地元で採れたものを使っています」と参加者をおもてなし。その後、語り部として有名な寿咲亜似さんが特別出演。赤井城にまつわる民話が披露されるなど、

昔ながらの水鉄砲におおはしゃぎ

木山老人クラブが協力、第4保育所で水鉄砲作り

町立第4保育所（深草安世所長）で7月27日、木山老人クラブ（梅田隆義会長）の会員9人と年長の子もたち19人が水鉄砲を作り、水遊びを楽しみました。

昔ながらの遊びを知ってもらいたいと同クラブが毎年行っており、水鉄砲の作成から手がけられました。完成した水鉄砲に子どもたちも興味津々。最初はいまむらまこ水を出せない子どもたちでしたが、要領を得ると水合戦がスタート。頭から水を浴びた今村真子ちゃんは「水の掛け合いが楽しかった」と満足気の様子でした。



頭上から降り注ぐ水に大喜びの子どもたち

Best Smile

今月のベスト笑顔

